

戦争経験を語り継ぐことの意義とは —団体活動を通して—

福祉学科

報告者：小林 友香

I. はじめに

私が戦争経験を語り継ぐことに強く関心をもったのは、小学校6年生のときである。私の地元の小学校では高学年になると、戦争の劇を演じるということが決められており、私も6年生の時に戦争で子どもを亡くしたお母さん役を演じた。その際に、遠くから見に来てくれていた私の曾祖母が当時の戦争の経験談を私に初めて語ってくれたことがきっかけであった。曾祖母は、秋田県の田舎で生まれ、戦争を経験したときはまだ10歳であった。私は曾祖母から、けがで徴兵されなかった父親が周囲から非難されたこと、食べるものがなく、芋のでんぷんを食べ空腹をしのいでいたこと、人が目の前で殺されるのを見たことなど、教科書には載っていない話を聞き、衝撃を受けたのである。それと同時に、曾祖母の「それが当たり前前の時代だったんだよ。(中略)これを語り継いでほしい。」という言葉を受け、絶対に語り継ぎたいと思ったのである。そこから方法を探り、高校2年生の時に戦争経験を語り継ぐ団体を立ち上げ、現在も活動を続けている。これは、約2年間の団体活動を通して感じた戦争を語り継ぐことの意義について、事例とともに考察したものである。

II. 学生団体 peace & voice の活動について

私(代表)が2021年9月に立ち上げた学生団体であり、「戦争経験者の声と私たち高校生・大学生の声を繋ぎ、未来に戦争の経験を語り継いでいくこと」を目標に活動している。メンバーは、全国のさまざまな県に住んでいる高校生・大学生合わせて18名である。主な活動は、戦争経験者の方にお話を聞き、記録・発信する活動で、今年度(2023年度)は、対面でのお話を聞く会、交流会の実施のほか小学校での講演会も行った。

Ⅲ. 問題提起

①若者と戦争経験者がつながり、戦争経験を知ることで若者の平和に対する意識はどのように変化するのか②戦争を語り継ぐことによって、聞いた当事者と次の世代にどのような変化が生まれるのかの2点を問題提起として、考察した。

Ⅳ. 活動の事例

1. 第1回戦争経験者とのオンライン交流会

これは、2021年10月12日に岩手県大船渡市赤崎町に在住の3人の戦争経験者の方にお話を伺ったものである。お話の中で印象に残ったものとして、薬の副作用が挙げられる。ある女性から「戦時中は食べるものが無くて、衛生状態が良くないものも食べていたから、お腹に寄生虫が入ることがよくあったの。その寄生虫を殺す飲む用の殺虫剤が配られたんだけど、しばらく視界が真っ黄色になったんだよ。」という話を聞き、衝撃を受けた。

2. 戦争経験者の話を聞く会

2022年6月4日(土)に岩手県大船渡市赤崎町在住で、戦時中は満洲にいた男性の方にお話を伺い、翌日、2022年6月5日(日)には岩手県大船渡市在住の男性の方にお話を伺った。(NHKの放送にも取り上げられた。)

戦時中に満洲に住んでいたことがある方からは、「満洲にいたときは楽しい思い出しかなかった。引き揚げ船で日本に帰ってきてからの方がいじめなど辛いこともあった。」という話を聞いた。他の方で満洲に住んでいたことがある方も同様の返答だったことから、日本と満洲の戦時中の暮らしの違いを知った。大船渡市に在住の方からは、「赤紙をもらった父を家族で送り出したんだけど、外ではお祝いで笑顔だった祖母が家で大泣きしていたことを今でも覚えている。」という話とともに、赤紙の複製を頂き、実際に赤紙をもらうことが死を意味していることを強く感じた。

Ⅴ. 活動を通して知った現状について

活動を通して知った現状は2つある。1つ目は、10代は戦争の経験談を聞く機会が少ないということである。小学校で講演をさせて頂いた際に、感想で「戦争についてあまり知りませんでした。」「戦争は怖い。」という言葉がいくつかあった。私たちよりも下の世代は戦争を教科書で見たことはあっても直接戦争経験者の声を聞く機会が少ないため、実際の体験談を聞くことが関心を持つことにつながるのではないかと考えた。2つ目は、戦地に行ったことがある体験者はごくわずかだということである。実際にお話を伺った方も9人中8人が80代で、戦地に行っ

た方は100歳近くになるため、なかなか聞くことが難しい。しかし、当時10歳でも鮮明に覚えていることから、戦争の心理的影響は大きいと考えた。

VI. 考察と今後の課題

戦争経験者の「語り継ぎたい」という思いと若者の「語り継ぎたい」という思いがつながることで、戦争に対する関心は増えたと考えられる。しかし、戦争経験者との接点がないため実感が湧きづらいと考えた。若者が戦争経験者の声に耳を傾けやすい機会を作るためには、どうすればいいのかについて今後も考えていきたい。

VII. 終わりに

活動を通して、戦争経験者の思いを次世代につなげつつ、少しでも戦争を知らない若い世代に知ってもらうためにはどうすればいいのかを活動をしながら方法を考えていく必要がある。質問として、「実際にお話を伺うときはどのように探しているのですか。」や「きっかけを知りたい。」など興味を持って頂き、発表という場ではあったが、この場で少しでも多くの人に戦争経験者の思いを伝えられたことが嬉しかった。新たに頂いたアドバイスを今後の活動に生かしていきたい。